（C）日刊スポーツ新聞社

住之江ボート16日開幕「SGグランプリ」へほとばしる思い

峰竜太にとってグランプリとは――

サボらずやってきたご褒美

アロハポーズで笑顔を見せる峰竜太

「SG第40回ボートレースグランプリ」特別企画として全5回、峰竜太（40）ら10人のトップレーサーが、ボートレース年末総決算を前に熱い思いを語ってくれた。福岡SGチャレンジカップで18人の出場者が決定。いよいよ1年で最も激しい戦いの火ぶたが切られる。そこで総集編として、レース参戦時には聞けない貴重な言葉を掘り起こし、レーサーたちの燃えるような闘志を味わってください！

初日11R・TR1st1回戦

枠番	6	5	4	3	2	1
選手名	原田 幸哉	中島 孝平	佐藤 翼	白井 英治	西山 貴浩	峰 竜太
年齢	50	46	37	49	38	40
支部	長崎	福井	埼玉	山口	福岡	佐賀
期別	76	84	105	80	97	95

初日12R・TR1st1回戦

枠番	6	5	4	3	2	1
選手名	磯部 誠	関 浩哉	宮地 元輝	新田 雄史	上條 暢嵩	山口 剛
年齢	35	31	39	40	31	43
支部	愛知	群馬	佐賀	三重	大阪	広島
期別	105	115	100	96	110	91

3日目11R・TR2nd1回戦

枠番	3	2	1
選手名	馬場 貴也	佐藤隆太郎	池田 浩二
年齢	41	31	47
支部	滋賀	東京	愛知
期別	93	115	81

3日目12R・TR2nd1回戦

枠番	3	2	1
選手名	末永 和也	桐生 順平	茅原 悠紀
年齢	26	39	38
支部	佐賀	埼玉	岡山
期別	124	100	99

18年初制覇　白井英治からかけられた〝お宝フレーズ〟

グランプリ優勝戦 得点率上位6人
- トライアル2nd → 賞金1～6位
- トライアル1st 得点率1～6位6人
- トライアル1st 賞金7～18位12人 → トライアル1st 得点率7～12位6人 シリーズ復活戦へ

30分涙また涙

18年12月24日。峰竜太は悲願だったグランプリ（住之江）の頂点に立ち、表彰式までの30分ほど、ずっと涙が止まらなかった。**「安心感とか、それまでの軌跡がいろいろよぎって、もう涙が止まらなくて。でもあの人からかけられた言葉がすごく印象に残ってます」**。

表彰式の舞台袖で、そのレース3着だった白井英治が、静かに峰を諭した。「竜太、お前が1番なんだ。泣いてないで顔を上げろ」。峰は**「それってなかなか言えることじゃないと思うんです。今でも自分の中のお宝フレーズ」**。将来、自分の後輩がSGやグランプリで勝った時、自分も同じような言葉を投げかけてあげられるような人間でありたい。自分が現役であり続ける限り、その役割を担う覚悟ができた。

「竜太、お前が1番なんだ。泣いてないで顔を上げろ」

天才じゃない

過去の自分に言いたいことがある。**「天才じゃないんだよ、と。何かにフォーカスして、俯瞰（ふかん）して見る力は優れていると思います。みんなが逃げてるところ、苦手な部分にあえて立ち向かう力。つらいことを継続する力。普通は弱点を補うために、得意な部分でカバーしようとするんですが、僕はそこで遠回りした。だから今の峰竜太がある。天才なんかじゃない」**。

40歳考え変化

以前、40歳で引退宣言をした。しかし今も現役。その理由は明快だ。**「30歳から10年間、責任感を背負ってきて、正直、つらくて病気になりそうだった。だからゴールを決めないと。誰よりも好きなボートレースで体を壊したくなかった。でも40歳を迎えて、考え方が変わりました。これからは2ndステージ、ボーナスステージにしよう、と。楽しみながらグランプリを走る姿を、ファンに見てほしいです。サボらずやってきたご褒美です」**。年を取ってさらに涙もろくなった。でも今年、また黄金のヘルメットをかぶった峰は、きっと笑顔でステージに立つだろう。

↑↑PDF紙面見られます

10戦士こう語った

峰　竜太（佐賀）
努力あってこそ
定松勇樹（佐賀）
〝進歩〟の現在地

佐賀のがばい2人が熱い気持ちをぶちまけた。全レーサーで屈指の人気を誇る峰竜太はナンバーワンであり続ける重圧を吐露。努力の大切さを語った。定松はその教えに沿うように、着実に歩みを進める自身の〝今〟を打ち明けた。
（取材日は6月30日）

馬場貴也（滋賀）
ライバルが支え
上條暢嵩（大阪）
クールに燃える

ライバルは時に支えになる―。馬場は峰竜太の助言に涙を流した。「僕は人に恵まれている」。だから、グランプリを勝つ。しびれる決意表明をした。上條は平常心を掲げる3度目のGP参戦。地元代表として、クールに燃える。
（取材日は8月23日）

池田浩二（愛知）
3度目Vへ闘志
磯部　誠（愛知）
恩師の言葉胸に

次はない。池田にはそれだけの覚悟がある。「今年最後でいいというくらいの気持ちで走る」。47歳の大ベテラン。3度目の優勝に向け、闘志をたぎらせた。磯部は恩師の言葉を胸に、ファイナル進出へ気持ちを高める。
（取材日は9月20日）

茅原悠紀（岡山）
〝今の俺は無敵〟
桐生順平（埼玉）
流れ掌握が大事

茅原は自負する。今の俺は無敵だ、と。技術はもちろん、メンタルも。遊びを通じて得た心構えで、2度目のGP優勝に打って出る。桐生は〝運〟を大事にする。流れをつかむ観察力の重要性を説いた。こちらも狙うのは2度目のVだ。
（取材日は10月5日）

佐藤隆太郎（東京）
不動心で初参戦
菅　章哉（徳島）
深い〝まくり〟愛

1位と19位。追われる者と追う者。第5回は立場が正反対ともいえる2人が登場した。SG2勝の佐藤は初参戦のグランプリに不動心で臨む覚悟を明かした。対する菅は持ち味の〝まくり〟への深い愛、こだわりを存分にアピールした。
（取材日は11月22日）

「知らない人にもボートレース知ってもらいたい」
福留光帆〝初代〟応援マネージャー

福留光帆（写真）は〝初代〟応援マネージャーとして、グランプリを盛り上げている。秋以降は赤を基調としたプレビジュアルが場内を彩り、今年最後のビッグレースを広く周知。福留は「自分をきっかけにボートレースを見始めた人もいる。知らない人にもボートレースを知ってもらいたいです」と最後まで走り抜ける覚悟だ。グランプリ初日の16日は第6R、第9Rの発売中に中央ホールで行われるステージイベントに登場する。

◆Road to THE GRAND PRIXキャンペーン　ボートレース住之江は「SG第40回グランプリ」の開催に先立って、6月から同企画をスタートさせた。応援マネージャーには福留光帆を起用。トップレーサーらとのトークショーをはじめ、現地イベントなどを通じてビッグレース開催への機運を高めてきた。公式HPにはレーサーたちがグランプリへの思いを語るインタビュー動画や、レーサーたちと福留の対談動画も公開中。PDF紙面では注目レーサー10人が秘蔵エピソードを披露。ファンから高評価を得ている。

プレゼント　10人サイン色紙を各1名に

「Road to THE GRAND PRIX」に登場したレーサー10人のサイン色紙を各1名にプレゼントします。希望者ははがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、〒530・8334（住所不要）日刊スポーツ公営事業部「グランプリサイン色紙」係まで。12日必着。当選者の発表は賞品の発送をもって代えます。応募は1人1枚でお願いします。

「ボートに乗りたくて仕方ない」
茅原

14年GP初出場優勝

今の茅原悠紀は無敵だ。技術的には言わずもがな。しかし、肝心なことはテクニックではない。心だ。「今はボートに乗りたくて仕方がない（笑い）」。葛藤を乗り越え、全力でボートレースに対峙（たいじ）している。

14年12月23日、平和島。GP初出場で優勝する偉業を成し遂げた。しかし、これが苦悩の始まり。子供のころから憧れた世界は灰色に変わった。「いつの間にか、誰かの期待に応えなきゃいけない…という感情が強くなっていた。デビューした頃はどういう気持ちだったかな？　と過去を振り返り、この後、どうしよう？　と未来を見過ぎて、その瞬間に集中できていなかった。30～35歳の間はボートが好きではなかったです」。

苦しみ救った〝遊び〟

苦しみを救ったのは〝遊び〟だった。知床半島をシーカヤックで1周した。準備に約2年。あらゆるリスクに対応できた。「こんなに勉強して、こんなに仕込めば、不測の事態が起きても、こんなにうまくいくんだ。これって、ボートレースと同じだと思った」。

成功の法則をボートに応用し、23、24年と連続でGP出場。2度目の頂点へ向け、何の迷いもなく、今年も住之江に乗り込む。

初日 12/16〈火〉トライアル1st 出場予定選手

12/18〈木〉トライアル2nd 出場予定選手

SG第40回 グランプリ ステージイベント
【場所】中央ホール

特設サイト　イベント情報をcheck!

1,000万円 ネット投票キャンペーン実施

BOAT RACE 住之江

場外発売 全国のボートレース場・ボートレースチケットショップ（場外舟券発売場）等において発売。●無理のない資金で、余裕をもってお楽しみください。●舟券の購入は20歳以上の方に楽しんでいただけます。●みなさまにご購入いただいた舟券の一部は、日本財団及び地方公共団体を通じ、社会貢献活動に役立てられます。●ご来場には電車・バスをご利用ください。Osaka Metro、大阪シティバス住之江公園駅下車。●掲載内容につきましては、主催者公式の情報（公式HP等）をご確認ください。　主催／箕面市